

IMJ NEWS LETTER

発行: 一般社団法人 日本統合医療学会 本部 〒113-0023 東京都文京区向丘1-6-2 Email : info@imj.or.jp FAX : 03-3812-5167

渥美理事長メッセージ

統合医療が“世界の医療の本流”となる

一般社団法人日本統合医療学会
理事長 渥美 和彦

先の東日本大震災は人間の価値観を変え、医療の在り方までも抜本的な影響を及ぼすこととなった。

大自然の脅威の前には人間は無力であり、自然と人間の“共生”を思い知らされることとなった。全てのライフラインが断たれた時、近代西洋医学は無力であり、患者を前にして、ただ徒に手をこまねくだけであった。しかし、漢方、鍼、ヨーガ、指圧、マッサージ、アロマセラピー、音楽療法などは被災者に安心や癒しを与え、大きな励ましになったとの報告が多数残されている。

そして、エネルギー、食料、水の無い生活は、無限に続くかの如く思われた浪費スタイルへの猛省を促し、その結果、資源を含む地球環境保護の重要性が改めて認識されることとなった。

また、エコ精神の再検討、病気にならないための予防医学の重要性、さらに「自分の健康は自分で守る：セルフケア」の必要性が自覚されるようになった。

つまり、1) エコ医療 2) 予防医学 3) セルフケアの必要性であり、これらは、まさに「統合医療」の実践によって行いうるものであろう。

鍼、ヨーガ、指圧、マッサージ、音楽療法などのTM&CAMはエネルギーを大量に消費する特別な機器や設備を必要としない。今や「統合医療」は治療のみならず、予防、健康増進をも目指すセルフケアの方法として利用されており、今後ますます、その傾向が強まるであろうことはいうまでもない。

これはまさに

- 1) 重装備医療の近代西洋医学からエコ医療への転換
 - 2) 治療医学から予防医学への転換
 - 3) 治療施設（受動的医療）への依存から、“自分自身のケア”への転換
- である。

即ち、いわゆるパラダイムシフトであり、発想の転換が必要である。

さらに輪をかける形で統合医療への転換を促す要因として挙げられるのは、近年の劇的な医学の進歩である。

遺伝子（ゲノム）科学の進歩により、遺伝子および病気の発症因子の解析が可能となり、「未病」状態での検知と診断が可能となってきた。

また、再生医学の進歩によって、自分自身の細胞から自分自身の臓器を創製する研究がすすめられており、将来は「自分の臓器と入れ換える」、つまり“自己移植”が可能になってくるものと考えられている。

すなわち、最早治療の時代は終わりつつあり予防医学の時代が到来しつつあるのだ。

さて、現代は、「不透明」、「不安定」、「不確実」の時代であるというが、その背景は一体なにか？

この本質を考えると「現代」とは東西文明が衝突し、そして、融合する時代であり、価値観の一大転換期である。これは、まさに千年に一度の大転換期であり、その結果として、東西文明の代表的産物である東・西医学が衝突、融合するのは歴史的にみて必然の流れであると言える。

すなわち、「統合医療」は人類の医学が到達すべき方向を目指しているということになる。

- 1) 有限な地球資源の活用からみた医学におけるパラダイムシフト
- 2) 遺伝医学と再生医学という先端医学の進歩
- 3) 世界史から見た東西文明の衝突と融合

本文では上記の三大視点から、「統合医療」の必然性を述べた。

今こそ我々は“世界の医療の本流”となるべき「統合医療」の必然性を信じ、胸を張り、あらゆるエネルギーを注ぎ、その発展と普及に向けて一層の努力を傾注しなければならないと考えている。

以上